

建築系学生奨励事業

第19回 卒業設計コンクール展 開催

埼玉建築設計監理協会の法人化30周年を機に始まった卒業設計コンクール展は、一般社団法人へ移行した協会の主要な活動として位置づけられています。コンクールは、その趣旨に賛同いただいた多くの企業・団体、共催・協賛団体の協力により運営されています。

今年も、埼玉会館の展示室を会場に、4月13日(土)から16日(火)迄の4日間にわたり開催されました。11大学41名の力作が会場いっぱいに表示されました。4月16日には上田清司埼玉県知事がご来場になられ、埼玉県知事賞を受賞した作品を中心に、受賞者と作品について意見交換をされました。

埼玉県知事賞、準埼玉賞受賞の作品については、関連した自治体へのプレゼンテーションや展示を行う予定です。卒業設計での提案を基に、今後、産官学が連携して地域の問題解決や賑わい創出ができることを期待しています。



上田知事と作品について語る出展者

◆開催主旨

昨今の都市計画や建築デザインに於いても、ICT革命時代にふさわしい斬新な発想が求められています。

そのような中、新しい世紀の第一線で活躍が期待される建築系学生の能力向上、育成を図る目的で、次代を先取りした意欲ある作品を募集し、若い学生達の考える創造価値と熱意を奨励します。

特に、当協会としては「埼玉」を分析し、再構築を試みることにより街づくりの活性化を図り、地域を変える起爆剤となるような夢溢れる作品を待っています。

◆日 程

展示場所 埼玉会館第3展示室 さいたま市浦和区高砂3-1-4
展示期間 平成31年4月13日(土) 13:00~16日(火) 13:00迄
審査日時 平成31年4月14日(日) 11:00~
表彰式・懇親会 平成31年4月14日(日) 15:50~



受賞者のみなさん



審査風景



出展者による作品のプレゼンテーション



懇親会開催



■実施概要

テーマ

地元「埼玉」について積極的に考え、課題を掘り起こした作品を広く募集すると共に、各人の選定した自由テーマとします。

募集作品

(1) 埼玉をテーマとした作品（埼玉県知事賞対象候補）

(2) 自由作品

上記の分類による都市や建築デザインをテーマとした個人作品の卒業設計を対象とします。

出展者は必ず担当教授の承認を得るものとします。

また、会場の都合上、最大展示作品数は35作品とします。

応募多数の場合予備審査を埼玉建築設計監理協会内で行い、結果をお知らせします。

賞について

埼玉県知事賞 1作品…募集(1)の作品の中で最も優れた作品（副賞として海外研修旅行目録・30万円相当）

準埼玉県賞 1作品…募集(1)の作品の中で優れた作品（副賞として5万円相当の目録）

埼玉建築設計監理協会賞 1作品…募集作品の中で最も優れた作品〔埼玉県知事賞受賞作品を除く〕

副賞として海外研修旅行目録・20万円相当）

準埼玉建築設計監理協会賞 1作品…募集作品の中で優れた作品〔埼玉県知事賞受賞作品を除く〕

副賞として5万円相当の目録

<全作品対象>

特別審査員賞 3作品…各大学の先生による審査とします（副賞として3万円相当の目録）

埼玉県住宅供給公社賞 1作品…まちづくりを題材とした作品（副賞として3万円相当の目録）

さいたま住宅検査センター賞 2作品…住宅を題材とした優れた作品（副賞として5万円相当の目録）

JIA埼玉賞 2作品…優秀な提案、建築家に相応しい作品

卒業設計を行った年度の大学学科の所在地が埼玉県内である応募者の中で優れた作品は本人の意思の確認の上、JIA主催全国学生卒業設計コンクールに2作品程度推薦します。

総合資格学院賞 2作品…社会に飛び出す若駒のエネルギッシュな作品（副賞として5万円相当の目録）

日建学院賞 1作品…来場者の投票により選ばれた作品（副賞として5万円相当の目録）

奨励賞 適宜

審査方法

公開審査で行います。

① 埼玉県知事賞候補作品審査 … 第一次審査で選ばれた埼玉県知事賞候補2作品による質疑応答を含め1人7分のプレゼンテーションを行い、審査委員の投票で決定します。

② 埼玉建築設計監理協会賞候補作品審査…埼玉県知事賞を除く全作品の中から2作品による質疑応答を含め1人7分のプレゼンテーションを行い、審査委員の投票で決定します。

審査員

作品出展校から各学部の先生1名、埼玉県（1名）、さいたま市（1名）、大手建設業（1名）

（一社）日本建築学会関東支部埼玉支所（1名）、（一社）埼玉建築士会（1名）

（一社）埼玉県建築士事務所協会（1名）、（公社）日本建築家協会埼玉地域会（JIA埼玉）（1名）

（一社）埼玉県建設産業団体連合会（1名）、埼玉県住宅供給公社（1名）、（一財）さいたま住宅検査センター（1名）

当協会賛助会員（1名）、当協会会員より数名

主催 （一社）埼玉建築設計監理協会

共催 （一社）日本建築学会関東支部埼玉支所、（一社）埼玉建築士会、（一社）埼玉県建築士事務所協会

（公社）日本建築家協会埼玉地域会（JIA埼玉）、（一社）埼玉県建設産業団体連合会

埼玉県住宅供給公社、（一財）さいたま住宅検査センター

協賛 （一社）埼玉県建設業協会、（一財）埼玉県建築安全協会、総合資格学院、日建学院

後援 埼玉県 さいたま市 テレビ埼玉

■受賞者ならびに出品者

埼玉県知事賞 JIA最優秀賞	綱川 毅	日本工業大学工学部建築学科 ホームセンター・ハイスクール ものづくりを通じて集まる学びの場
埼玉建築設計監理協会賞 JIA優秀賞	竹内 一輝	東洋大学ライフデザイン学部人間環境デザイン学科 寂滅の新陳代謝 -中銀カプセルタワー-納骨堂転生計画-
準埼玉賞	桑村 駿太	東京電機大学未来科学部建築学科 反転する武甲山
準埼玉建築設計監理協会賞	渡邊 健太郎	日本大学生産工学部建築工学科 都山 ~地山地消型超高層集合住宅~
特別審査委員賞	小泉 大季	武蔵野美術大学造形学部建築学科 文化に浸かる
特別審査委員賞	野口 新	武蔵野美術大学造形学部建築学科 身体の同質性と精神の異質性 nakameguro house
特別審査委員賞	遠藤 涼平	日本大学生産工学部建築工学科 天空の霊廟
JIA優秀賞	進藤 恭侍	ものづくり大学技能工芸学部建設学科 「結び目となる地域」への再生 ~古名新田地域の新たな街づくり~
埼玉県住宅供給公社賞	小林 弘道	ものづくり大学技能工芸学部建設学科 小さな居場所 -吹上富士見団地改修計画-
さいたま住宅検査センター賞	野邊 茜	東京理科大学理工学部建築学科 まちいとを紡ぎ、ひとぬのを織る
さいたま住宅検査センター賞	岩崎 萌子	工学院大学建築学部建築デザイン学科 水の学校
総合資格学院賞	永田 伊吹	東洋大学理工学部建築学科 再構築のゆくえ
総合資格学院賞	中村 晟宏	芝浦工業大学システム理工学部環境システム学科 第2の人生始めませんか?
日建学院賞	南雲 雄大	武蔵野美術大学造形学部建築学科 Lake Town + Cultural Center -創造による循環型ニュータウンをめざして-
奨励賞	飛鳥井 秀斗	東京電機大学未来科学部 建築学科 地域をつなぐ架け橋 -アーケード商店街の再編-
	雨宮 匠	芝浦工業大学システム理工学部 環境システム学科 ワーカーの楽園 -都市の空隙に立ち上げて-
	池田 開	東京電機大学未来科学部 建築学科 紡ぐ技術
	岩崎 友美	日本大学生産工学部 建築工学科 キューボラのある街 ~産業支援交流施設の計画~
	加木 佑佳	東洋大学理工学部 建築学科 大地と向き合う
	大野 向輝	東京理科大学理工学部建築学科 駅ナカ一体建築都市 -上野駅建替・再開発に対するカウンタープラン-
	岸 宥佑	芝浦工業大学システム理工学部環境システム学科 De: commuter-suburb -研究活動による生きがいの創出-
	木村 友香	芝浦工業大学システム理工学部環境システム学科 いきいき朝霞コンプレックス
	五味 彼方	ものづくり大学技能工芸学部建設学科 富士みち -信仰と芸術の文化記憶装置-
	齊藤 浩史	日本工業大学工学部建築学科 起業家を育てるエリアリノベーション ~都市計画道路により生じた残地の有効利用~
	朱 純暉	工学院大学建築学部建築デザイン学科 水上ノ民、水辺二還り、
	仙福 孝太郎	東京理科大学工学部二部建築学科 生と死のあいだ -アイヌの納骨堂と文化資料展示空間-
	高橋 稜太	ものづくり大学技能工芸学部建設学科 ポヘミアン・フレーム いすみ市・山林の生長する工房
	塚本 沙理	東京理科大学理工学部建築学科 垣塙の表情 ~移民社会におけるスポーツを通じた交流施設のあり方~
	西川 雄斗	芝浦工業大学システム理工学部環境システム学科 開き・繋ぐ場 -白山通りと集鴨地蔵通り商店街をつなぐコミュニティ空間の提案-
	沼田 晴代	京都造形芸術大学通信教育学部デザイン科 百年団地 ~緑道から作る、団地のこれからの団地の半世紀~
	野中 俊彦	日本大学生産工学部建築工学科 New Owner's Method
	藩 太輝	日本工業大学工学部建築学科 ケアパーク・ハオロック 医療・福祉・地域をつなぐ都市公園
	藤井 和馬	東京理科大学工学部二部建築学科 溜池に棲む集落 -溜池式住居建築の提案-
	藤井 保奈美	ものづくり大学技能工芸学部建設学科 多世代型シェアハウス「かけはし」 戸田市空き家改修計画
	藤田 正輝	東京理科大学理工学部建築学科 遺達の塔
	矢野 晴子	東洋大学理工学部建築学科 TODAKO -ボートのまちのみんなの公園-
	山下 千彩貴	武蔵野美術大学造形学部建築学科 都市のレタッチ -土木のスケールと人間の行為が作る可能性-
	山本 祐里	日本女子大学家政学部住居学科 境界に澄み合うまち -益裁町における境界の再構築-
	横塚 理花	東京電機大学理工学部理工学科 三富地域活性化計画
	陸川 愛永	日本大学生産工学部建築工学科 ものがあること。~芸術が蘇る場所~
	渡邊 幹子	日本工業大学工学部生活環境デザイン学科 戸田のキャラクターをつなぐ地域の拠点

埼玉県知事賞 JIA最優秀賞

日本工業大学工学部建築学科 綱川 毅
ホームセンター・ハイスクール ものづくりを通じて集まる学びの場

わが国における産業教育の創立以来、専門高校は産業経済を支える人材を輩出し、その発展に寄与してきた。しかし近年は、専門高校生の実習経験の不足や、専門分野で職に就く卒業生の減少が問題視されている。一方で、専門教育を受けない人がものづくりに関心をもち、自らの手でものを作り出す需要が高まっており、ホームセンター（以下、HC）等の施設が人気を得ている。そこでこの計画では、工業、農業、総合高校の実験・実習室を組み込んだ専門高校のサテライトキャンパスと、HCの複合による、新たなものづくりの学びの場を提案する。生徒とHCユーザーの動線を調整し、空間的なスケールを操作することで、専門高校の実験・実習室とHCの売り場が並存する計画とする。半外部である『ものづくりのみち』では、専門高校生と、HCユーザーの活動が交わる。専門高校生に技術の継承をもたらす学びの場であると同時に、一般のHCユーザーに専門的な技術を伝える場となる。

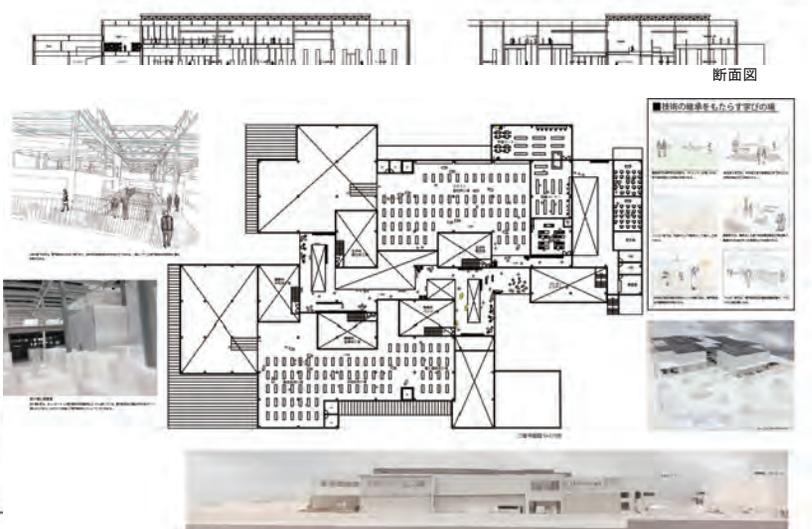
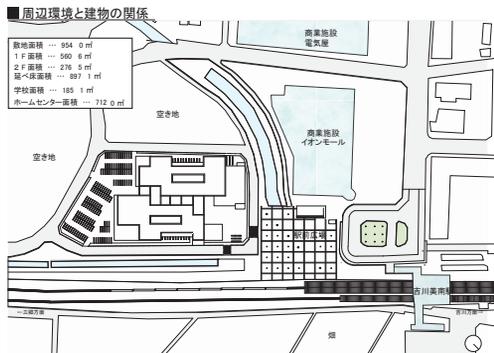
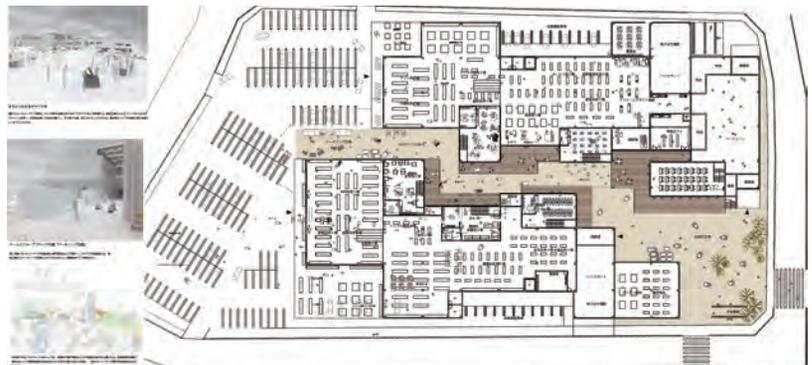


■専門高校の現状 ■ホームセンター建築の現状 ■計画地

■専門高校の現状
 専門高校は、高度な専門教育と実践的な実習を重視する教育機関である。しかし近年は、実習設備の不足や、卒業生の減少が問題視されている。一方で、ものづくりに関心をもち、自らの手でものを作り出す需要が高まっており、ホームセンター（以下、HC）等の施設が人気を得ている。そこでこの計画では、工業、農業、総合高校の実験・実習室を組み込んだ専門高校のサテライトキャンパスと、HCの複合による、新たなものづくりの学びの場を提案する。

■ホームセンター建築の現状
 ホームセンターは、生活必需品やDIY材料を扱う大規模な商業施設である。近年は、DIY文化の普及により、需要が高まっている。しかし、従来のホームセンターは、単なる商品の陳列場にとどまらず、DIY教室やワークショップを提供する施設へと進化している。そこでこの計画では、専門高校の実験・実習室とホームセンターの売り場を並存させる計画とする。

■計画地
 計画地は、工業団地と住宅地の間に位置する。周囲には商業施設や住宅が点在している。計画地は、交通の便が良く、アクセスが容易である。また、周囲の環境と調和したデザインを追求している。



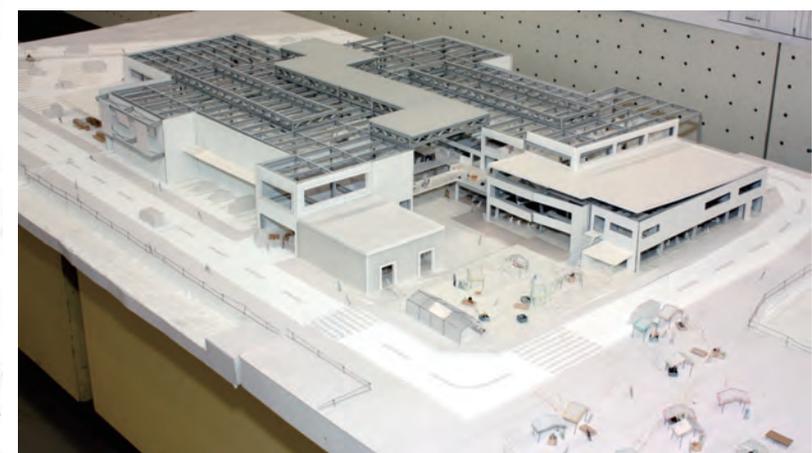
■空間配列と動線計画

【専門高校】天井高: 3000mm
 【ホームセンター】天井高: 5000mm

半透明のトラス屋根 鉄骨フレーム図

【生徒・H・S利用者・従業員の動線計画】
 生徒
 HS利用者
 従業員

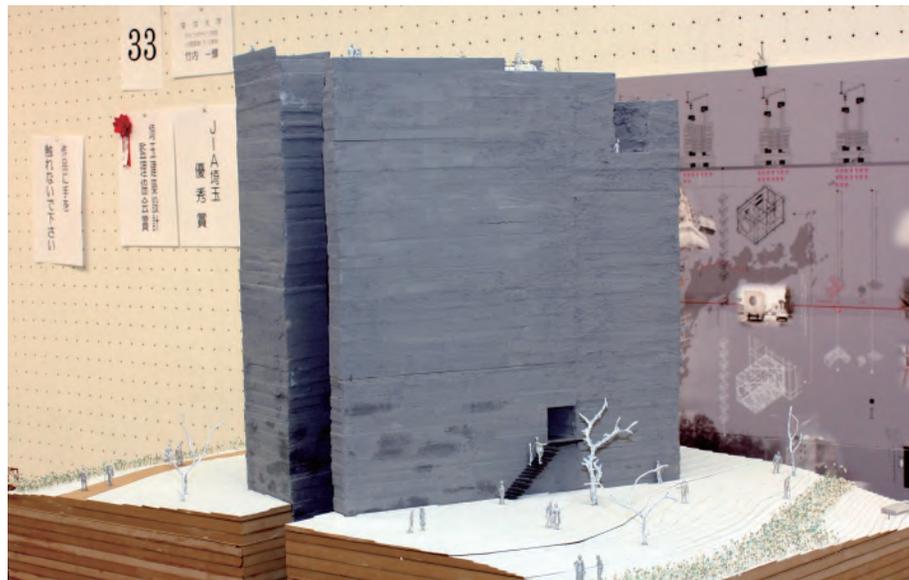
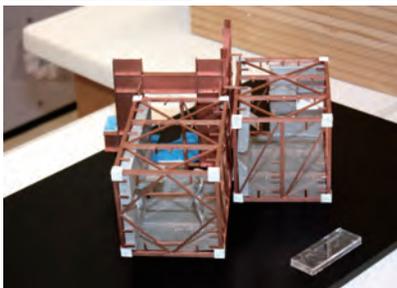
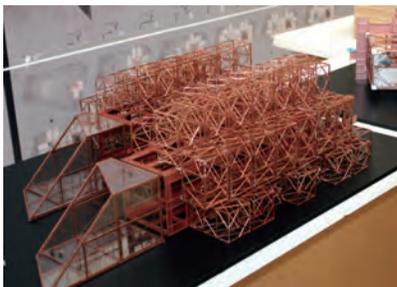
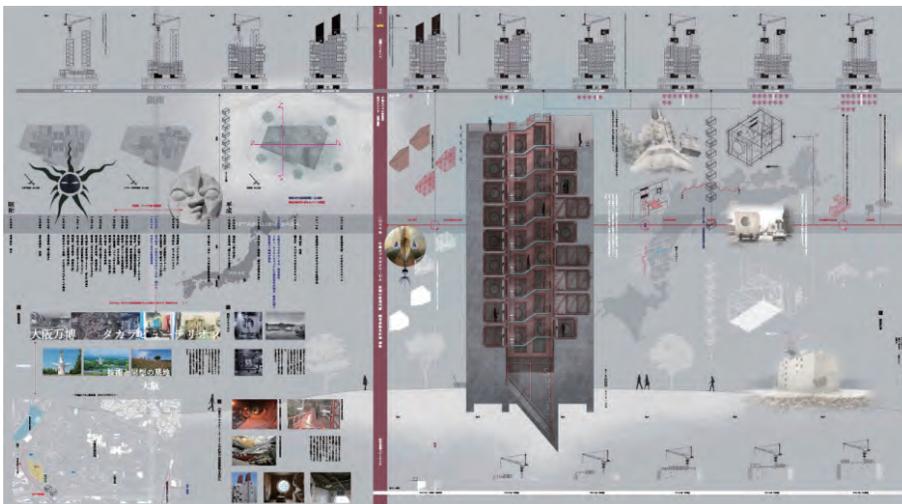
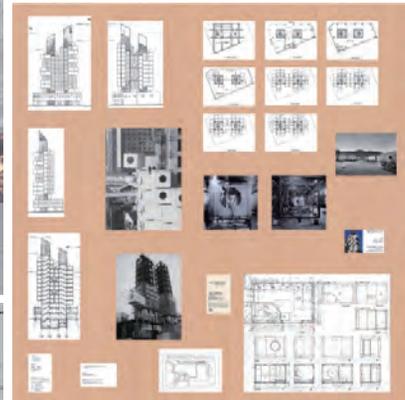
【利用者のアプローチ】



埼玉建築設計監理協会賞 JIA優秀賞

東洋大学ライフデザイン学部人間環境デザイン学科 竹内 一輝
寂滅の新陳代謝 —中銀カプセルタワー納骨堂転生計画—

人が亡くなるように、建築もいつかは滅ぶ。
しかし、永遠性とは裏腹の無常観こそが日本で育まれてきた美意識である。
2018年6月から、黒川紀章設計の中銀カプセルタワーはかつてないほどの解体の運命を強いられている。私はこの運命を自然の節理が生む天命であると定め、寂滅の新陳代謝として新たな道筋を与える。



準埼玉賞

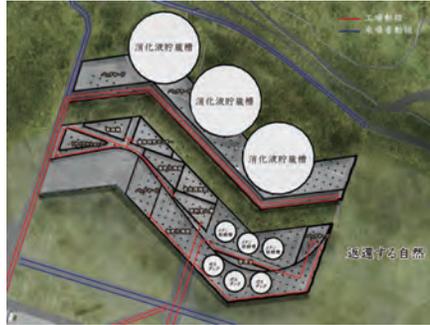
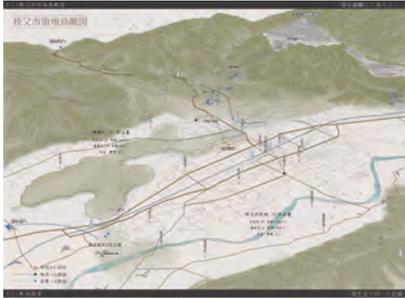
東京電機大学未来科学部建築学科 桑村 駿太
反転する武甲山



埼玉県秩父盆地に立つ霊山・武甲山。信仰の街である秩父に点在する寺社仏閣のすべての御神体がこの武甲山なのだが、表面の石灰岩の採掘により、街のシンボルである武甲山が破壊されてしまった。破壊の象徴とした武甲山の現状を伝えつつ、再生の象徴としての「反転した武甲山」を提案する。敷地はセメント工場第一工場跡地。

そこで三つの機能を挿入する。

- ①再生可能エネルギーを創るゴミ発電所
 - ②街の伝統を再生するための観光拠点「道の駅ちちぶ」
 - ③武甲山表面に自生する石灰岩地特殊植物群落を移植し再生・保存を行う植物研究センター
- これらがランドスケープと一体化した建築を提案する。



準埼玉建築設計監理協会賞

日本大学生産工学部建築工学科 渡邊 健太郎
都山 ～地山地消型超高層集合住宅～



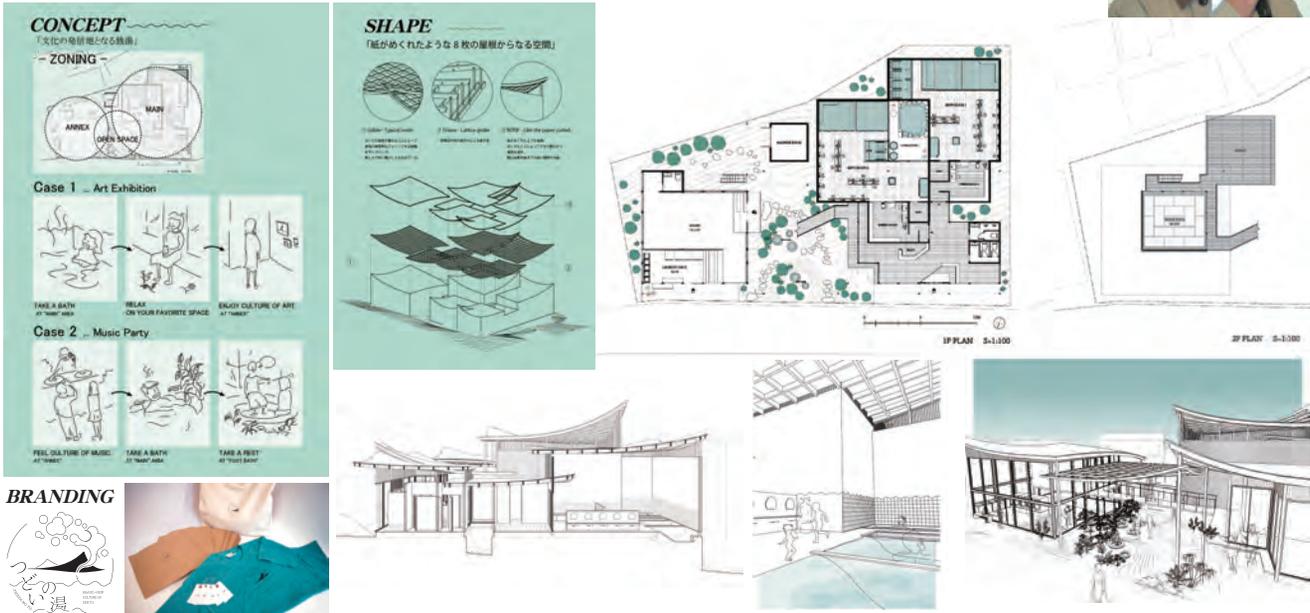
現代の集合住宅は高層化し、大地が消えたことで、様々な環境問題を引き起こしている。この山は建設残土により住戸を高層化し、大地に根付いた暮らしを可能にするだけでなく、内部には生活を支える大きな機能が潜在する“地山地消”型の超高層集合住宅である。年月をかけて立体化していく緑は都市に新たな風景をつくる。



特別審査委員賞

武蔵野美術大学造形学部建築学科 小泉 大季
文化に浸かる

銭湯はこれまで「入浴」という生活に不可欠なものを提供してきた。それが結果的に人と人を繋げるコミュニティとしての役割も担ってきたが、内風呂などの普及が原因で廃業する銭湯があとを絶たない。しかしながら銭湯という日本特有の文化は今でも一部の人々を魅了し、さらにコミュニティとしても必要とされている。これからは残り続ける銭湯のひとつの提案として、通常銭湯の持つ浴場としての機能に加えて、イベントを行うことのできるオープンなスペースを併せ持つ施設の計画をした。ここでは音楽、写真、アート、ストリートカルチャー、ファッションなど様々な文化をイベントや個展などを通して体験、発信することを想定しており、訪れる人はこの場所も1つの浴槽という感覚で開催されるイベントごとの文化に浸かる。



特別審査委員賞

武蔵野美術大学造形学部建築学科 野口 新
身体の同質性と精神の異質性 nakameguro house

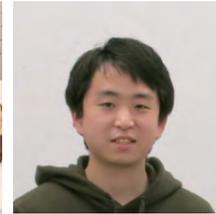
多様化の時代においての私たちの関係性を考える。自己同一性を決定図ける要因はパソコンや iphone の向こう側にも存在している。かつては場所が自己同一性を決める大きな要因であったがそれが変わりつつある。現代の私たちは同じ場所にながら、概ね同質な身体の中に甚だ異質な精神性を持ち合わせている。ある特定の場所を扱う建築にとっては、甚だ異質な精神性をもった複数の人々を扱うことになる。本制作では中目黒にシェアハウス+アトリエ+ギャラリーといった建築を計画する。そのうえでアーティスト同士あるいはアーティストとギャラリーを訪れる不特定多数の人々を対象とし 人々の関係性を考える。



特別審査委員賞

日本大学生産工学部建築工学科 遠藤 涼平
天空の霊廟

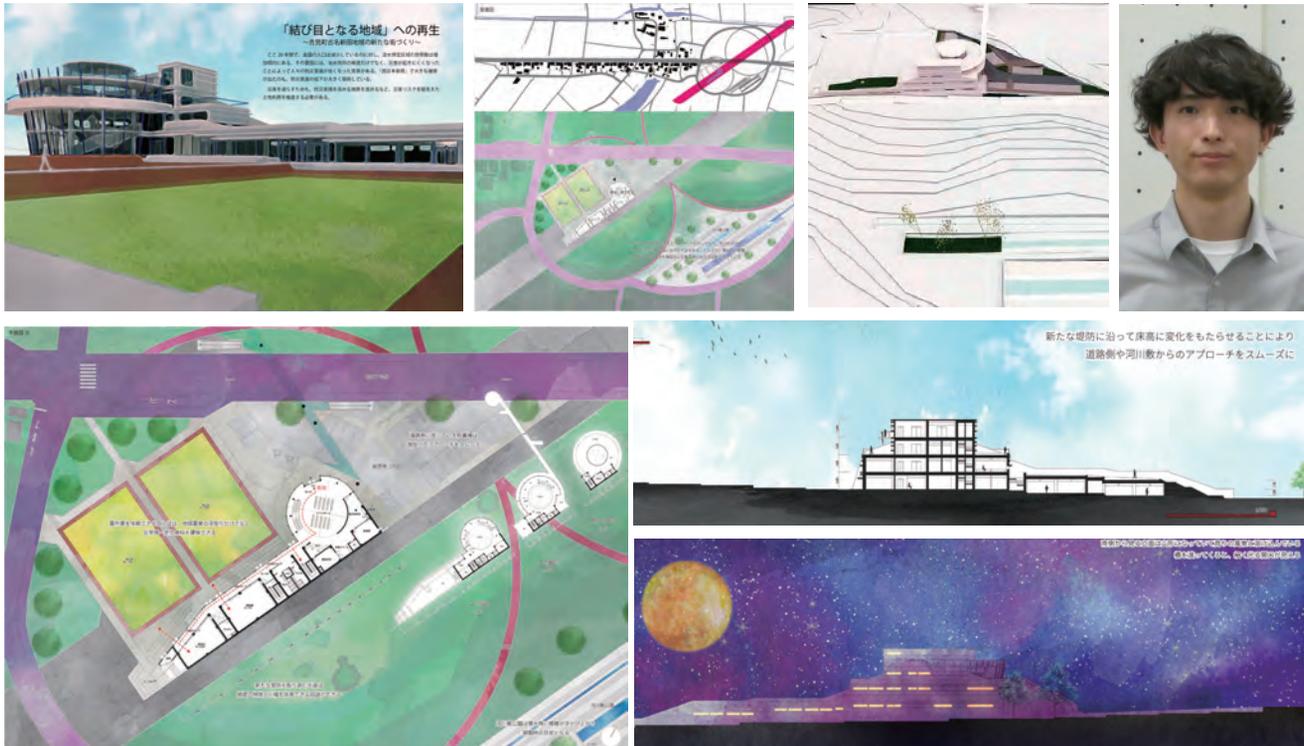
多死社会にある日本。都市部では墓をめぐる問題が起きています。時代が変動する中、墓問題の収束を目指す巨大共同墓地を提案します。電波送信を終了した東京タワー。ここは、超長期的に歴史をみると死者とのつながりが深い土地です。役目を終えた時代のシンボルに、新しい役目を与えます。巨大墓地空間をもつ東京タワーは、遺族にとって故人を想う、終のシンボルとなります。



JIA 優秀賞

ものづくり大学技能工芸学部建設学科 進藤 侖侍
「結び目となる地域」への再生 -古名新田地域の新たな街づくり-

「古名新田地域」は、かつて御成河岸があり荒川舟運で賑わった地域であるが、若者の流出や高齢化が進んでいる。また、広い川幅によって、人々の交流が分断され、この地域の荒川の水害と関係した古い歴史や防災知識などは廃れつつあるのが現状である。本設計は、鴻巣市と吉見町を結ぶための「結び目となる地域」として再生するための新たな街づくりの提案である。



埼玉県住宅供給公社賞

ものづくり大学技能工芸学部建設学科 小林 弘道
 小さな居場所 -吹上富士見団地改修計画-

本計画は「居場所」をテーマとした住宅団地改修計画の提案である。現代では会わずして他人とつながり居場所をつくるのが可能だ。しかし居場所とは実際に顔を合わせ、つくられるものであると考える。そこで住宅団地内、特に住戸・住人に身近な場所に住人同士の交流の場「居場所」をつくることでそこに集まって住む価値を見出す。

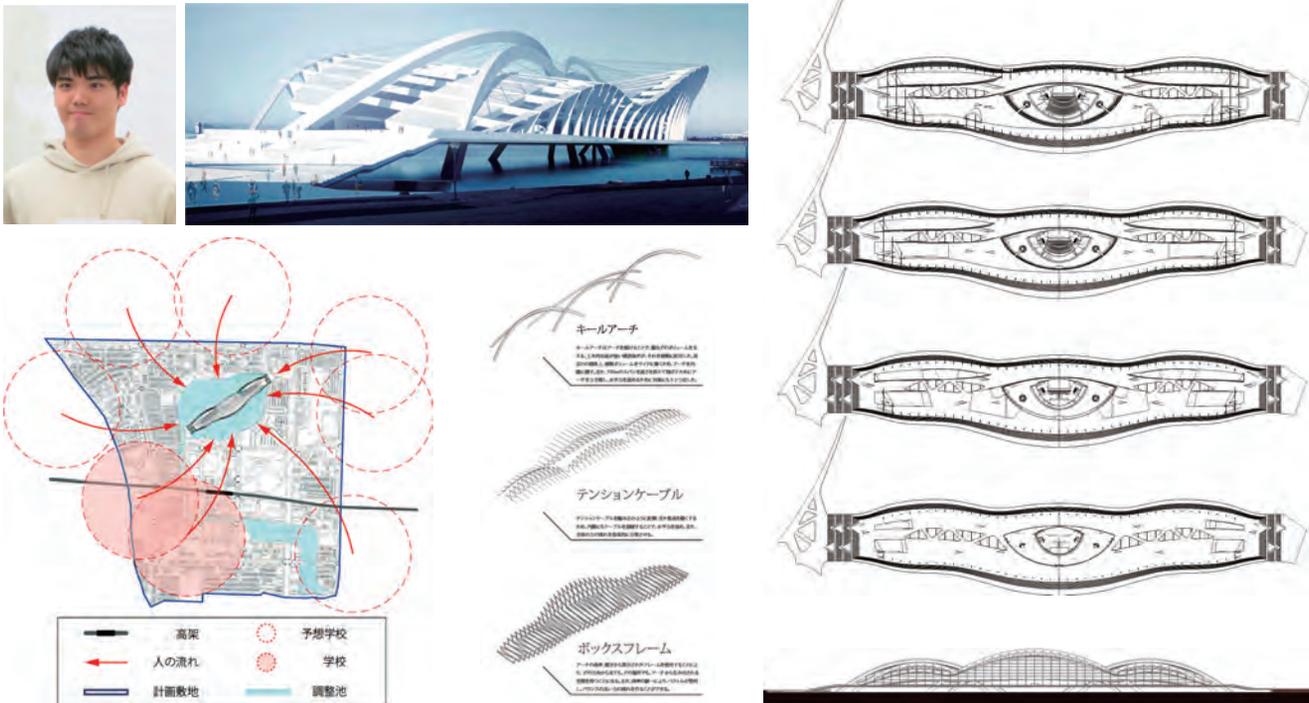


Renewal Plan Photo Book

日建学院賞

武蔵野美術大学造形学部建築学科 南雲 雄大
 Lake Town+Cultural Center -創造による循環型ニュータウンをめざして-

ニュータウンは合理的な仕組みで作られた計画的な都市デザインであるが、40年間を経てスポンジ化現象が起り、また、負のイメージとしてベッドタウンと呼ばれるようになった。これらの問題に明確な解決が行われないまま今現在も多くのニュータウン建設が行われている。都市設計は建築業界で最大級の事業であり、問題の先送りが行われている現状を早急に打破しなくてはならない。そこで、ニュータウンの問題解決案を提案することにする。



さいたま住宅検査センター賞

東京理科大学理工学部建築学科 野邊 茜
まちいとを紡ぎ、ひとぬのを織る

かつては地域住民によって賑わう、職住一体の生活風景美しい街・川越市連雀町であったが、世代を重ねるごとにその形を変えてきている。私の卒業設計では、過ぎゆく時代の中で変わりゆく人々を受け入れつつもこの地に長く根付いた暮らしの風景を後世へ繋ぐための更新方法について提案する。そしてこの場所で営まれる「暮らし」が新たな1つの魅力となり、世代を超えていつまでも人々を惹きつける街となるまでのストーリーである。

まちいとを紡ぎ、ひとぬのを織る

設計部分詳細

1. 住民と住民の領域と境界面
2. 住民と商人の境界面
3. 住民と観光客の領域と境界面

設計手法

- 街区の更新スキーム
- 新築部のボリュームの検討
- 階層ダイヤグラム

AA' 断面図 S=1:200

写真: 野邊 茜

さいたま住宅検査センター賞

工学院大学建築学部 建築デザイン学科 岩崎 萌子
水の学校

昨今の水害などの都市防災の根本的な原因は、近代都市と自然が概念的に切り離されてしまったことにある。その意識を近づけるために、駅に近接した見沼田圃に、都市に隣接するエコビレッジとしての「水の学校」を提案する。近隣住民、来訪者は親水空間や水のランドスケープの中で、都市が、自然とともにあることを意識する。

Design Concept

1. 農業の形を引用
2. 地形スケープの空間
3. 都市の日常の一体化

Program

- 水学校
- 水学校
- 水学校

Area

Flow line

写真: 岩崎 萌子

総合資格学院賞

東洋大学工学部建築学科 永田 伊吹
再構築のゆくえ

人口減少の中で、町の縮小は急速に進行していく事が予想されている。しかしコンパクトシティ実現は難しいのが現状であり、そうした状況で自由にふるまいやすい軽い建築を提案する。

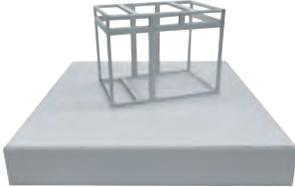


空き店舗化やシャッター商店街の出現
地元での雇用喪失

経営活動と建築の再構築

土地に固着するような店舗と建築だったが、建物ごと移動させながら経営にあった場を選び店舗展開する建

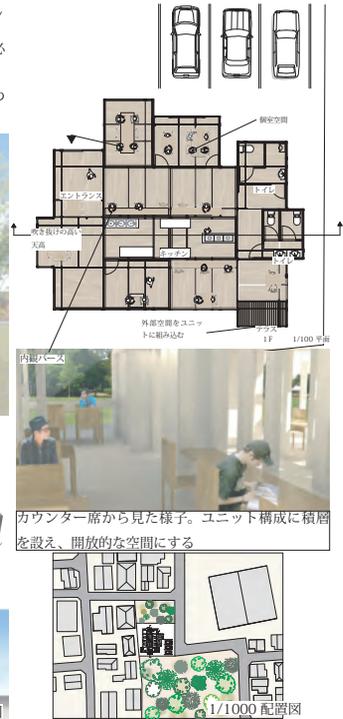
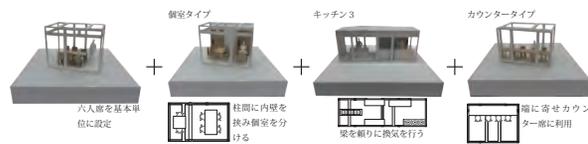
変化するユニットの設計 Box 決定版



06 建築提案

閑静な住宅地の中に店舗構える。20個のユニットのうち周辺状況から客席を過剰に入れる必要はなく余分だと考えられるユニットは吹き抜け空間や屋外空間として利用した。木々に囲まれた場所に店舗を構えて落ち着いた空間、オープンキッチンのレストランでいくつかの個室も設けている。

Site1: 小さな森のレストラン



総合資格学院賞

芝浦工業大学システム工学部 環境システム学科 中村 晟宏
第2の人生始めませんか？

戦後、日本の都心への人口流入の受け皿として計画された住宅団地。その暮らしは実に豊かであった。しかし、住宅団地は「住まう」だけの機能しかなく、現在の住宅団地は昔の華やかだった頃の姿を失った。本計画では住宅団地を地域の重要な資源と捉え多様な「住まう」×「」を提案した。この計画により団地は新しい姿として更新され、華やかだった頃の姿を取り戻し地域にとって欠かせない資源となっていこう。

